

A氏および一部団体との問題に関する事実経過の報告

現在、TransgenderJapan（以下、TGJP）共同代表だった浅沼智也（2023年10月11日付でメンバー資格停止措置）から「性暴力」被害を受けたと訴えられている方（以下、A氏）がいらっしやいます。A氏の訴えに基づき10月25日から26日にかけて、一般社団法人ふえみ・ゼミ&カフェ様、BrokenRainbow-japan様、青森レインボーパレード実行委員会様、SWASH様の4団体（以下、当該4団体）から「声明」が発出され、31日にはA氏からTGJPの賛同団体や活動を共にしてきた団体・個人宛に実名入りの「文章」が送られ、チェーンメール化して水面化で拡散されているようです。11月3日には浅沼が個人名で「声明」を公表し、11月6日には当該4団体のプラットフォームを用いてA氏から浅沼声明に対する反論が公開されました。

TGJPはジェンダー平等の実現を理想に掲げる団体として、性暴力の根絶を追求する立場であることをまずもって明言いたします。しかしながら、A氏や当該4団体の発表内容に事実とは異なる内容が含まれており、それらがSNS等を通じて広く拡散されております。さらに、それらの情報に触れた第三者によってTGJPへの新たな疑惑が創作され、それがA氏や当該4団体に伝わって新たな不審を呼び起こす事態にもなっております。

この事態に鑑みて、特にTGJPとA氏の関係について、可能な限り詳細な経過を記述した上で、TGJPにかけられている主な疑惑について返答をします。

【事実経過】

〈2023年2月14日（火）夜の出来事〉

この日の夕方、TGJPは参議院議員会館で院内集会を主催していました。院内集会終了後、片付けと簡単な懇親会を行って解散時間が遅くなったため、共同代表の浅沼と事務局長の村田は赤坂のホテルに1泊することにしました。A氏は前泊も含めて同じホテルの3階のシングルルームに宿泊しており、当該院内集会やその後の懇親会にも参加していました。浅沼・村田はそれぞれシングルルームを確保しなかったものの満室で叶わなかったため、やむをえず10階の2人部屋（予約時点ではツインルームとの説明を受けたが、入室してみるとダブルルームだった）を予約しました。

ホテルに到着後、3人で当該院内集会について報道されているNEWS23を視聴しました。院内集会に関する報道が終わり、その場はおひらきとなりました。それぞれが荷物整理などを行っている中で、浅沼から同室で就寝する予定の村田に向かって「仕事で明日朝早いけれど、寝坊しないかな？」という旨の発言がありました。それに対してA氏が「私は朝まで起きて仕事をしている。起こそうか？」という旨の提案をしました。浅沼とA氏の2人で話がまとまり、本来浅沼・村田が就寝するはずだったダブルルームで浅沼とA氏の2人が、A氏のシングルルームで村田が就寝することになりました。

10月31日のA氏発信の「文章」ではA氏の部屋に浅沼が居座ったことになっていますが、それは事実とは異なります。

〈2023年9月22日～末日ごろ、Facebook問題〉

この日、TGJP共同代表の畑野とまとがFacebookに政治的意見を投稿しました。「立憲民主党 コミュ」という立憲民主党の支持者による非公式のページに投稿された中ピ連（1970年代に活動したウーマンリブ団体「中絶禁止法に反対しピル解禁を要求する女性解放連合」の略称）に対する評価に対して、「それは違うんじゃない？」という旨の表明を内容とするものでした。この投稿にA氏がコメントをつけ、最初の数回は畑野がコメント返しをしていました。しかし、長文コメントを連投されるようになり、コメントの趣旨がわからなくなったため「いいね」をつけ

るのみという対応に切り替えました。そうしたところ、A氏から「なぜ対話をしない?」「それでも人権を掲げる活動家か!」といった不満を内容とする長文が畑野のFacebookメッセージ宛に断続的に送られるようになりました。畑野とA氏とは20年以上にわたって活動を共にしてきた仲でしたが、A氏の尋常ならざる様子に触れ、畑野はしばらく距離を置くという対応をとりました。そうしたところ、TGJPメンバー各人にA氏からの着信や長文が届くようになりました。合わせて、TGJPのメールアドレス宛にも夜毎長文メールが届きました。この経過の中で、畑野とA氏は一度zoomでの対話を行っており、その場には畑野のパートナーであり、TGJPのメンバーでもある畑野ぶちとまとも同席していました。A氏からの質問攻めに畑野とまともが疲弊した様子を見かねて、畑野ぶちとまともが「距離を置きましょう」とやや強めに口をはさみ、対話が終了しました。また、TGJPメンバーのSallyとA氏との間でのチャットのやりとりでは、一方的に長文を送ってくるA氏の行為についてSallyが「(A氏は)自分のことしか考えていないように見える」という所感を返答しています。

ここまでが10月7日以前の経過です。後に、10月31日のA氏発信「文書」では、このような畑野ぶちとまとも並びにSallyの言動がすべて「性暴力被害の告発」に対して発せられた「二次加害」ということにされている他、「Facebook問題」をめぐるTGJPメンバーとの個別のやりとりの話と「性暴力被害の告発」に対するTGJPの対応の話が混同・再構築されてしまっています。

〈10月7日、「性暴力」の告発〉

2023年10月7日(土) 20:10

フェミニズム運動やジェンダー運動に関わる複数の団体のメンバーらからなるLINEグループ(以下、当該グループ)にA氏から「性暴力」の告発が行われ、事務局長の村田がそれを発見しました。A氏の告発文には

「私としては、TGJP団体にも、共同代表らにも対話を求めてきましたが、「個人間の揉め事を持ち込むな」「活動を潰す気か」とTGJPメンバーらから言われるなど、セカンドレイプの心配しかない状況のため、信頼できるお友達がいるこのライングループにて、お伝えさせて頂くこと、村田さん、みなさま、どうかお許してください。」

「自分たちの活動にとって不利益なことを一切遮断するどころか全力で潰してくるTGJPの人らにはもう何も期待していません」

「性の権利や人権のことで活動し続けているお友達の団体の数々が、このことを何も知らずに、TGJPが性暴力の問題について、性の人権についてまっとうな団体であると思っている見方を更新してほしいくて、心苦しいですが、共有させてもらいました。」

という記載があり、あたかもA氏からTGJPに当該グループでの告発より以前に被害を訴えたにも関わらず、TGJPが組織的にその声を潰したかのような描き方をされています。しかしながら、TGJPメンバーは2023年10月7日(土) 20:10までA氏から「性暴力」被害の訴えを受けたことは一切ありません。『「個人間の揉め事を持ち込むな」「活動を潰す気か」とTGJPメンバーらから言われる」という内容については、前述のFacebook問題を巡るA氏とSallyの間のFacebookメッセージのやりとりを指していると思われます。「性暴力被害の告発」に関してTGJPのメンバーがそのような内容をA氏に伝えた事実はありません。

2023年10月7日20:10当時は、A氏告発文に含まれる先に述べた記載に違和感を抱きつつも、「性暴力」の告発への対応が最優先と考え、告発文をTGJP運営メンバーのチャットで共有したのち、浅沼から聞き取りを実施しました。ただし、浅沼も混乱しており、事実確認は困難な状況でした。

〈10月8日～、村田・畑野とまとからA氏への連絡〉

司法機関ではないTGJPは「性暴力」についての事実認定をできる立場にはありません。それでもなお、A氏による「性暴力被害の告発」について、当事者双方から可能な限りお話をうかがい、場合によっては団体として謝罪することが責任の取り方だと考え、村田がA氏にLINEで①（TGJPと）やりとりをさせていただいていいかどうか、②その場合、誰となら話ができるかを尋ねました。〈2023年10月8日15:27〉

A氏から②への回答として提示された人物は畑野とまとでした。そして、関連するやりとりの中で、A氏からは、全ては畑野の失礼極まりない態度が発端である、村田からではなく畑野からの連絡を求める、との発信がありました。

なぜ、「性暴力」の発端が「畑野の失礼極まりない態度」なのかについては疑問が残りましたが、まずは、告発者の気持ちを最優先すべきと考え、畑野とまとがA氏に連絡をしました。

畑野とまとがA氏宛のFacebookメッセージャーに送信した内容は次の通りです。

A様からの性暴力被害の告発を受けて

A様

日頃から大変お世話になっております。TransgenderJapan共同代表の畑野とまとです。弊団体の浅沼智也がA様に性暴力加害を犯した旨をうかがいました。まずもって、誠に申し訳ございません。苦しい胸中を打ち明けてくださったことに感謝申し上げ、また、敬意を表します。TransgenderJapanとしても非常に重く受け止めております。

現在、弊団体として、浅沼の処遇やトランスマーチの在り方を含めた対応について検討を進めております。そのことに関わり、本件についてA様のお声、ご意向をうかがいたく、話し合いの場を設けさせていただければ幸いに存じます。ご都合のよろしい日程をご教示ください。

最後に、A様の心身を深く傷つけてしまいましたこと、改めてお詫びを申し上げます。

TransgenderJapan 共同代表 畑野とまと

〈2023年10月10日12:42〉

上記文書は、TGJPが団体として、メンバーによる「性暴力被害」をA氏が告発したことを重く受け止め、まずはこの点を謝罪し、話を伺う日程の都合をお尋ねしたものです。浅沼による「性暴力加害」をTGJPとして事実認定したものではありません。

この送信から始まるやりとりの中で、A氏から畑野とまと宛に次の通りの発信がありました。

「苦しい胸中は先月からずっとTGJPのメールアドレス宛に打ち明けてきてるけどね。性暴力受けましたって言うたとたん、手のひら返してきて、自分の物差しで人の苦しみを測るのやめなよ。」 〈2023年10月10日13:08〉

「あのときたった1時間くらい話ができたら事は済んだことなのに、TGJPメンバーたちをはじめ、多くの人々が犠牲を払うことになり、残念です。私たちの共通の仲間だった多くの人間関係が切れたりしていくことにもなるし、私たちの味方をしてきてくれたたくさんの人にこのことで失望させている。そういうことを防ぐ公共的なことより、自身の機嫌を常に優先する即物的な思考パターンをやめないといけないと思う。」 〈2023年10月10日13:31〉

「私は浅沼くんについては特に何の感情もないし、べつに謝ってほしいとも思ってないから、この件で会わなくても大丈夫だよ。浅沼くんが私にしたことの意味を変えたのは、TGJPのみなんだから。」〈2023年10月13日12:44〉

「浅沼くんが私にしたことの意味が変わったきっかけになった言葉を私に言ってくれたのが、ぶちとまとちゃんとサリーちゃんだから。彼女たちと話ができない限り、私はみじめな性被害者と思って生きていだけだから。」〈2023年10月13日12:44〉

「誰だって、自分は被害者と思って生きていくのはつらいことだからね？」〈2023年10月13日12:45〉

「だから私は「性被害者」なんかになりたくなかったよ！」〈2023年10月13日12:47〉

「だから、みんなにあれだけ、話を聞いてほしいと言ったのに！」〈2023年10月13日12:48〉

対外的には浅沼による「性暴力」を訴えながら、訴えられた問題に対応しようとするTGJPに対しては「Facebook問題」への畑野とまとら、浅沼以外のTGJPメンバーへの非難を発してくるA氏に、TGJPは混乱し困惑しました。A氏にとっては「浅沼くんが私にしたことの意味を変えたのは、TGJPのみなんだから。」というのが、2つの筋を矛盾なくつなぐ論理であったのだろうと解釈しますが、その論理は理解に苦しむところです。

これらのやりとりが交わされている間、2023年10月10日夜にはTGJPが浅沼への聞き取りを再度zoomを用いて行いました。その際、後に2023年11月3日に浅沼が個人名義で発信することとなる声明とおおよそ同じ内容が語られました。そして、「性暴力」の嫌疑をかけられている人物をその件に関する意思決定に関わらせるわけにはいかないことから、浅沼を10月11日付でメンバー資格停止の措置としました。同時に、A氏から訴えられている「性暴力」の存否については、TGJPが判断できる立場にないため、浅沼氏とA氏の間で双方代理人を立てて話し合っていたことを基に事実認定をし、TGJPとしてはその結果に応じて浅沼の処遇を決めるという方針を立てました。

その後、当該グループでのA氏の告発を受けてTGJPに質問状を送付してきていたふえみ・ゼミ宛に2023年10月11日23:34付で回答を返信しました。ほぼ同じ内容を同じ経過で事態を知っていたBrokenRainbow-japanにもメールで送信しました。

12日にはA氏からの電話を村田が受け、1時間程度対話をしています。その際、「性暴力」の存否について当事者であるA氏と浅沼が代理人を立てて話し合った上で事実認定をするのが適切である旨を伝えています。また、13日14:00からは村田とA氏、A氏が人選した第三者とでzoom会議で対話をしました。

〈10月14日、畑野とまととA氏の会談〉

2023年10月14日の日中、畑野とまとがA氏の居住地へ伺い、会談の機会をいただきました。会談の中では、A氏から事態を大事にしたことについて泣きながらお詫びを受ける場面もありました。そして畑野とまととA氏の間で次の3点の合意が交わされました。

①トランスマーチを楽しみにしている当事者たちのエンパワメントの機会は無くしてはいけないこと、つまり、今年も11月19日にトランスマーチの開催は実現に向け努力すること。

②両者の間で和解に至ったため、今後は、TGJPの性暴力の件はこれ以上広めず、コミュニティへの影響を最小限に留める方針にする。

③「性暴力」の問題の責任の取り方や、今後の対策など具体的な取り組みについては、今回の問題を知るトランスコミュニティの人々らが納得のいく筋道を模索すること。

この3点については、A氏自身が当該グループに「ご報告とお礼」という形で発信しており、上記引用の「TGJPの性暴力」という表現はA氏によるものです。〈2023年10月14日22:42〉

この合意を踏まえ、TGJPは「浅沼がA氏に対して果たすべき責任」「浅沼がTGJPに対して果たすべき責任」「TGJPが果たすべき責任」（以下、3つの責任）を設定しました。

「浅沼がA氏に対して果たすべき責任」は

- ・ 本件の事実関係を、必要であれば第三者を交えて明らかにすること
- ・ (事実認定の結果によっては) A氏に謝罪し、A氏からの許しが得られれば「示談書」などを取り交わすこと

「浅沼がTGJPに対して果たすべき責任」は

- ・ 「浅沼がA氏に対して果たすべき責任」を果たしたことをレポートで報告すること
- ・ レポートは同時に、次に同じ過ちを犯した時（性暴力加害の嫌疑がかかった時）には即刻除名を受け入れる旨を宣誓すること
- ・ 浅沼が共同代表であることが妥当かどうか、身の振り方を考え、方針を示すこと

「TGJPが果たすべき責任」は

- ・ 浅沼が果たすべき責任について、その達成にむけて指導すること
- ・ 浅沼からの意見聴取を踏まえ、浅沼の処遇について指導すること
- ・ 本件が発生して以降のTGJPの対応を記録、検証し、「対応マニュアル」を作成・運用すること
- ・ 性暴力に関する学習をメンバー一人一人に委ねるのではなく、研修等への参加、開催を通じて弊団体全体の問題意識を底上げすること

〈10月21日～、4団体による抗議声明文の発出〉

2023年10月21日、当該グループにメンバー個人が参加しており、既にA氏の告発を知っている団体に宛ててA氏と畑野とまとの間で交わされた3つの合意点や上記3つの責任を含む経過報告のメールを送信しました。そうしたところ、当該グループにてふえみ・ゼミの運営メンバーである方から次の発信がありました。

「「Aさんとの合意」や「コミュニティへの影響」を盾に、加害者および団体の責任を棚上げしている上、性暴力の事実を知るに至った人たちの口まで塞ごうとするような内容でした。これを受け、ふえみ・ゼミは、Aさんの意向を尊重して一度は公開しないことにした声明文を公開する方向で準備を進めています」 〈2023年10月21日22:12〉

そして、BrokenRainbow-japanのメンバーの方からも次の発信がありました。

「私たちも、本日TGJPからのメールを受け取り、書いてあることのあまりにも酷すぎる内容に衝撃を受けました。黙っていることは不可能であると思っております。」 〈2023年10月21日23:34〉

これを受け、畑野とまからふえみ・ゼミ宛に「「Aさんとの合意」や「コミュニティへの影響」を盾に、加害者および団体の責任を棚上げしている上、性暴力の事実を知るに至った人た

ちの口まで塞ごうとするような」意図はなく、いちどzoomもしくはふえみ・ゼミ事務所へうかがって経過や方針等を直接説明させて欲しい旨を22日朝にメールしました。

それに対する、ふえみ・ゼミからの返信は次のようなものでした。

今回の加害を行った「共同代表」が誰なのかを形式上伏せたまま、TransgenderJapanの「共同代表」お二人のどちらの辞任も解任も発表されない状態で、「共同代表」を名乗る方から話し合いを申し入れるご連絡をいただくこと自体が、まずありえないことです。

情報を公開しないということは、外部の者にとって、どなたが信頼できるのか判断できないということです。畑野さんではないと私たちは思っていますが、貴団体が情報を公開しない以上、それは現時点では「推測」でしかありません。こうした状況下において、畑野さんは外部の対応をなさる立場には本来ないはずで

今回の性暴力について、ふえみ・ゼミ&カフェとしては、性暴力の事実が確認された時点で、加害者を共同代表から解任し、理由を公開で説明した上、マーチを中止すべきだったと考えています。すくなくとも、私たちはTransgender Japanから以前いただいたご連絡を受け、そのような対応がなされることを期待し、待っていました。

性暴力はどのような属性の人でも加害者にも被害者にもなりえます。そして、個人の人権擁護は社会運動の基本です。Transgender Japanがマーチへの賛同を募り、社会的な変革を求める以上、基本的責任を果たすことを期待していたのです。Transgender Japanが対話と説明をする相手は、ふえみ・ゼミ&カフェではなく、社会であり、トランスマーチに期待している人々ではないでしょうか。

しかし、昨日Transgender Japanから送られて来た途中経過報告を見る限り、私たちが「最低限すべきと考えていること」と大きな開きがあることがわかりました。性暴力の事実を知った上で隠すということは、レイプカルチャーを維持し、性暴力が生み出される関係性を放置することです。

知った以上、そして性暴力が起きた団体への賛同を一度してしまった以上、自らの考えを声明文を通じて公表することは、私たちの責務でもあり、自由でもあります。

よって、顧問弁護士とも相談の上、近日中に声明文を公開する予定です。

なお、Transgender Japanが自ら情報公開をされることが、望ましいという立場は変わりません。以上、よろしくお願いします。

そしてこのあと、10月25日夕方から26日にかけてふえみ・ゼミ、BrokenRainbow-japan、青森レインボーパレード実行委員会、SWASHの当該4団体から相次いで抗議声明が発出されることとなります。上記の返信メールにおいても、また、4団体発出の声明にも言えることですが、TGJPは10月7日の告発を受けて以後、当事者双方からの聞き取りを行おうと試みて参りましたが、「性暴力があった」という事実認定をしたことはありません。事実認定は当事者双方の代

理人弁護士を交えて証言と証拠を積み上げながら行うべきであり、TGJPはその手続きが遂行されるための下支えにこそ責任があると考えております。

なお、TGJPはふえみ・ゼミに宛てては12月1日付で次の内容の内容証明郵便を送付していません。

貴団体は、貴団体HP上で、2023年10月25日付「東京トランスマーチ2023への団体賛同取り下げのお知らせ」で、「Transgender Japan関係者による性暴力について、被害を受けた方からの告発があり、Transgender Japanに団体として確認したところ事実関係をお認めになった」と記載しています。

しかしながら、弊団体は浅沼智也が性暴力を行ったことを認めたことはありません。（弊団体が貴団体に送信した同年10月11日付けメールのうち、2月14日の「行為そのものについては認め」ということの意味は、弊団体が性暴力であると評価したものではありません。）。弊団体としては、その当時の状況等を総合的に勘案し、浅沼智也が行った行為が性暴力に該当すると断定することは極めて難しいと認識しています。

〈10月31日～、A氏の実名入り「文書」の発出〉

2023年10月31日20:00、TGJPは当該4団体からの抗議声明発出を受けてのステートメントを公表しました。一方、A氏は、同日夕方ごろから、TGJPの賛同団体をはじめとするLGBT当事者団体、アクティビストらに宛てて次の書き出しで始まる実名入り「文書」のメール送信を始めました。

性の権利に関するアクティビズムに従事する方で、トランスマーチの今を心配してる方々へ〈団体名〉メンバーのAと申します。このメールは、トランスマーチ賛同団体の皆様をはじめとする、性の権利に関するアクティビズムに従事する方で、トランスマーチの今を心配してる方々にメールさせてもらっています。

私は、いま問題になっている、Transgender Japan(TGJP)メンバーによる性暴力の被害者です。

TGJPは、A氏からの上記メールが少なくとも3つの団体、4名の個人宛に送付されていることを確認しています。この「文書」では2023年2月14日夜の出来事についてA氏のシングルルームに浅沼が居座ったことになっている、10月7日の告発以降、10月13日に突然TGJPメンバーが押しかけてきたかのような書き振りになっているなど、事実と異なる内容が多数散見されるものとなっています。そして、A氏は「文書」の末尾で「このメールは、性の権利に関するアクティビズムに従事する方で、トランスマーチの今を心配してる方に限定して、転送して下さって構いません」と転送を推奨しました。それにより、チェーンメール化して拡散される中で、「TGJPが性暴力被害者を訴えようとしている」などの新たな虚偽言説がSNSなどに投稿され、それを見たA氏からLINEの当該グループを通じて「村田くん、これ本当？」などと問われるなど、もはやTGJPの手に負えない混乱状況に突入しました。

その後、2023年11月3日に浅沼が個人名義で声明を発表し、3日後の11月6日に当該4団体のプラットフォームを用いて、A氏による反論文書が公開されました。その中では、

「TGJP事務局長・村田しゅんいち氏から被害者にかけての電話でも、「浅沼氏と直接事実関係のすり合わせをしてほしい」と要請されていました。」

「11月1日に通話発信したのは、現在TGJP共同代表の畑野とまと氏が、被害者や抗議声明を出した団体について、デマや誹謗中傷などを言いふらす二次加害をおこなっているため、被害者は、TGJP事務局長の村田しゅんいち氏と共同代表の畑野とまと氏に連絡をとろうとしていたが、二人とも被害者からの電話もメールも無視し続けている」

という、畑野とまとと村田しゅんいちの実名を挙げた上での批判が展開されています。前者については、従前の通り、双方代理人を立てての事実認定を再度提案したものであり、被害告発者に加害者とされている者に直接会えなどという暴力的な内容を申し上げてはおりません。また、A氏が何を指して「デマや誹謗中傷」としているのかは定かではありませんが、電話やメールに応答していないのは、10月31日発出の「文書」での10月7日以降のTGJPの対応についての描写のされ方に鑑みて、直接対話を避け、弁護士による代理人対応に切り替えることで事態の混乱の深刻化を回避する必要があると考えたからです。

ここまでが、今回の事態に関する事実経過となります。

【TGJPにかけられている主な疑惑について】

上記の事実経過を踏まえて、以下3点の主な疑惑に回答します。

- ① TransgenderJapan共同代表の浅沼智也が被害を訴えておられる方（以下、A氏）に対して、「性暴力」加害を行ったこと
→当事者双方から聞き取りを試みたが、TGJPとしては「性暴力」があったともなかったとも認定できる立場にありません。双方に代理人弁護士を立てて証言や証拠を積み上げながら事実認定をする必要があり、TGJPはその手続きの遂行を下支えすることに責任を持たなければならないと考えています。浅沼智也についてはメンバー資格停止の措置をとりましたが、事実認定を踏まえて最終的な処遇を検討します。
- ② TransgenderJapanが組織として①を知りながら隠蔽を図ったこと
→混乱の中、TGJPの対応に未熟さ・不十分さがあったことは真摯に反省するものの、10月7日の告発以前に事態を把握していたということはないですし、10月7日以降、隠蔽のために動いた事実はありません。
- ③ 浅沼智也以外のTransgenderJapanメンバーがA氏に対して暴言・無視などの二次加害をおこなっているというもの
→二次加害といわれているものの一部は上記Facebook問題をめぐりやりとりを「性暴力被害の告発」に関するやりとりに置き換えているものがあります。「性暴力被害の告発」に関し、TGJPのメンバーがA氏が指摘するような誹謗中傷の発言をした事実はありません。今日までに各団体に対してTGJPが行った説明や事態の混乱を回避するための措置を二次加害と言われては困ります。

TGJPは10月下旬以降、混乱の深刻化を回避するために本件についての代理人弁護士を探して参りました。ところが、A氏とTGJPメンバー、とりわけ畑野とまとと村田しゅんいちの活動領域が極めて近いことから、利益相反があちこちで発生してしまい、11月中旬に至るまで受任弁

護士が決まりませんでした。具体的な内容を含む情報発信が大幅に遅れたのは、このことに起因しています。日頃からTGJPに対して心を寄せてくださっているみなさま、この度の事態でご心配をお掛けしたみなさまには心からお詫びを申し上げます。また、本日までにこの度の事態について説明する機会をもうけてくださった団体の皆様、11月19日に新宿駅周辺で東京トランスマーチ2023に代わるイベントを企画・運営をしてくださった有志の皆様には深く感謝を申し上げます。

TGJPでは現在、この混乱状況を収束させるために代理人弁護士を立て、必要な対応をしています。本報告の公表もその一環です。

2023年12月28日
TransgenderJapan